

2024 (令和6) 年度 静岡県立大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル)

自己点検評価結果

令和7年3月31日

数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価委員会

No.	自己点検の視点	評価基準	点検結果	結果の根拠	改善に向けた取り組み
1	プログラムの履修・修得状況	履修登録者数、修了率、成績分布、科目ごとの単位修得率を指標とし、学生が計画的にプログラムを履修・修得している。	○	本教育プログラムを構成する2科目の講義・演習について、全5学部の中の4学部の修了者率は90%を超えている。 残り1学部においても60%を超える修了者率で、選択(卒業認定要件)の1科目の必修化も進み、修了者は順調に増加する見込みである。 各学部のR6年度の入学者(収容定員ではない)における本教育プログラムの修了率は下記のとおりである。 ・薬学部: 94.6% ・食品栄養科学部: 100% ・国際関係学部: 66.7% (履修年次: 1~2年次) ・経営情報学部: 93.3% ・看護学部: 99.2%	本年度と同様、引き続き、すべての学部の、すべての学生に履修を勧奨する。 1学部の1科目の履修が1~2年次であるため、本年度に履修しなかった学生には次年度の履修を勧奨し、本教育プログラムの修了要件を満たすようアドバイスする。さらに、履修し易くするため、R7年度よりPC演習のある必修(卒業要件)科目を1講座増やして計7講座とする。 若干名の再履修者については、履修動向(理解度を含む)をモニタリングし、学修成果が向上するようアドバイスする。
2	学修成果	定期試験や課題、プレゼンテーション、レポートなどの成果物を通じて、知識の定着度や活用力、思考力を評価し、学修目標に照らして達成度が十分であり、かつ、学生の満足度も十分である。	○	学生アンケートの結果より、学生の多くが本教育プログラムを受講しており、知識が深まったとする回答であった。本教育プログラムを構成する2科目の中の1科目をオンデマンド教材を用いたアクティブラーニングとしたことから、自ら進んで学習したとする項目で点数が高かった。 受講確認の小テストや、課題レポート(定期試験を含む)などの成績が高かったことから、一定の学修成果があったと評価した。学生の満足度も十分に高かった。 AIを活用して各学部の専門性を高めることを目的とした、学部別のデータリテラシーの科目では、すべての学部の、すべての学生がPC演習で学修したことにより、修学度は高かった。 総じて、5学部全体の到達目標、および、各学部の学修のねらいも達成できたと評価した。	課題(例えば、数理・データサイエンス・AIが活用されている身近な学部特有の事柄の仕組みや効果を論述する課題)レポートなどによる修学度、および、学生の満足度が十分に高かったことから、引き続き同様に取組む。 そして、5学部全体としての到達目標、および、各学部の学修のねらいも達成できていたことから、引き続き同様に取組む。 なお、令和7年3月の文部科学省の申請に関する説明会で紹介されたAIに関する内容を追加するなど、より良い授業に改善する。
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生アンケートを通じた学生の自己評価による授業の理解度が高い。	△	本教育プログラムを構成する講義への出席により、「分からないことを質問したり、調べたりした」、「新しい知識や考え方、技術が身についた」、また、主体的に学習した(「アクティブラーニングできた」と回答が得られるなど、数理・データサイエンス・AIの知識を深め、技術を修得できていると評価した。 なお、文系の学生の修学度は高かったものの、学生アンケートでは「やや難しい」との意見は少なくなかった。	数理・データサイエンス・AIの知識やスキルに差のある学生を対象としているため、既に豊富な知識やスキルを有する学生が満足し、同時に、初心者の学生には多大な負担とならない授業の在り方を検討する必要がある。国際関係学部では、履修し易くするため、R7年度よりコンピュータリテラシーの必修(卒業要件)科目を1講座増やして計7講座を開講する。 また、実課題を解決するためのAI利用に関する紹介を行うなど、授業を改善する。

4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生がプログラム科目の履修を後輩等他の学生に推奨している。	△	全5学部のうち4学部は本教育プログラムを構成する2科目のすべての講義・演習(修了:1年次)を必修(卒業要件)科目としているため、先輩から後輩への推奨ではなく、入学者オリエンテーションで教員より履修が必修であると周知している。残り1学部では、PC演習を要する1科目の選択(卒業要件)科目の配当年次が1～2年次であるが、修了者・上級生から未履修者・下級生への推奨については十分に把握できていない。学部内のイベントや部活やサークルの活動などを介して推奨されているにとどまる。	次年度、1学部のPC演習を要する1科目の「選択(卒業要件)科目」が、他の4学部と同様に「必修(卒業要件)科目」となることから、すべての学部の、すべての学生が本教育プログラムを履修する。 なお、R7年度よりコンピュータリテラシーの必修(卒業要件)科目が1科目増え計7科目となるため、2年次の4月のオリエンテーション時、教員より2年次の未履修者は(新入生の履修が分散するので)履修し易くなると伝えている。
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画が適切に進捗している。	○	R6年度は、概ね、すべての新入学生に1～2年次の卒業要件の科目であるため、本教育プログラムの開始1年目であっても多くの学生が履修し、修了者となった。引き続き、1学部の選択(卒業要件)科目の2年次の履修を勧奨する。R7年度より、選択科目を必修科目にする改善を進めたい。 R6年度の初年度より、既に、本教育プログラムは看護学部の編入生も対象としている。	次年度から、1学部の選択(卒業要件)科目は、カリキュラム編成と学則変更により必修(卒業要件)科目として開講する学則変更が承認され、看護学部の編入生を含め、すべての学部の、すべての学生が本教育プログラムを履修する。上記のNo.3で記載したとおり、国際関係学部では、履修し易くするため、R7年度よりコンピュータリテラシーの必修(卒業要件)科目を1講座増やして計7講座を開講する。したがって、次年度以降、履修者数は順調に増える。
6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修了者の就職率や進学率、就職先での活躍状況、企業・団体からのフィードバック調査を基に、教育プログラムが社会での実践力や評価につながっている。	評価なし	R6年度に本教育プログラムを開始したため、修了者はまだ卒業する年次でないことから、進路・活躍状況・企業等の評価ができない。	本教育プログラム修了生の追跡調査を行い、本教育プログラム等の改善に役立てると共に、就職等の支援に役立てる。
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学外機関からの意見を聞き、教育プログラムの改善に繋げている。	評価なし	R6年度は本教育プログラムの開始年度であるため、評価を記載することができない。	令和5年度の半ばより東海デジタル人材育成プラットフォームの会員校となり、教育モジュール検討会議や教育カリキュラム検討会議で議論した産業界への橋渡しの意見・内容、また、会員企業からの産業界の取り組み紹介などで得られた知見を学内で共有することで、産業界の幅広い視点を取り入れた教育プログラムに改善するよう務めている。

8	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学生が数理・データサイエンス・AIに対して興味や関心を持ち、その学習の意義を自らの言葉で説明できるかを評価基準とし、定期試験、レポートや学生アンケートで確認する。	○	「授業を受けることにより更に学習意欲が高まった」、「授業に積極的に参加し、熱心に取り組んだ」、「分からないことを自ら質問したり調べたりした」という項目でポイントが高かった。自由記載では、「楽しく演習することができた」、「面白かった」といった回答があった。 なお、本表項目の2でまとめたとおり、修学度は高かった。	本教育プログラムで学修した数理・データサイエンス・AIを実社会で適用、もしくは、応用する場面を具体的に説明することで、本教育プログラムを学修することの意義を伝える。 そのためには、教員と学生間の双方向的コミュニケーションを図るだけでなく、実課題解決の案をプレゼンテーションするなどで学生間、および、学生・教員間のコミュニケーションをよりいっそう図ることで、学修することの楽しさを実感できるよう工夫する必要がある。
9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	学生の理解度や満足度を把握するアンケート結果、授業内での発言や質問の活発さを指標とし、内容の深さを保ちながら理解しやすさが向上している。	○	文系学生への本教育プログラムの適用、特に数理・データサイエンス・AIを苦手とする学生への適用では、(データリテラシーの科目など、本教育プログラムの開始前の学生アンケートによる「やや難しいと感じている」の意見や修学度を考慮しながら、)本教育プログラムの課題の難易度と分量を調整して授業を実施したことで、全5学部を通じて総じて、「授業内容の量と範囲は適切であった」、「授業の進度は適切であった」、「授業内容を分かりやすく理解させる工夫をしていた」、「ポイントを的確に押さえた授業であった」、「教員は質問や疑問に適切に対応していた」という項目でポイントが高かった。 また、自由記載では、「分かりやすく教えてくれた」、「教材が分かりやすかった」といった回答があった。	引き続き、文系学生への課題の難易度と分量を考慮し、すべての学生の理解度と満足度が高い状態を維持しつつ、分かりやすいAI・生成AIの授業内容を増やし、AI・生成AIの講義内容が展開するよう、本教育プログラムを精査し改善を進める。

資料(すべて非公表)

1. 2024年度の学生授業評価アンケートの集計結果(授業・演習毎)
2. プログラムを構成する授業の内容の追加・修正アンケート(全5学部、および、学部毎)
3. 授業・演習の自己点検・評価アンケート(全5学部、および、学部毎)